

平成24年度 県北地区社会教育セミナー

対象は公民館等の職員及び
地域の復興に関心のある方々です。

と き：平成24年10月25日（木）
と ころ：二本松市安達公民館

テーマ：災害時に求められる公民館の機能と その後の地域づくり支援の機能

1 講 義



「“おだがいさま” が支えた169日間 ～ビッグパレットふくしま避難所が教えてくれたこと～」

元ビッグパレットふくしま避難所県運営支援チーム
福島大学 うつくしまふくしま未来支援センター

特任准教授 天野和彦 氏

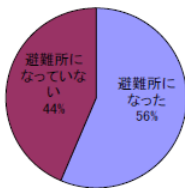


始めに、先生がビッグパレットに赴任したときの生々しい状況についてお話を聴き、受講者の皆さんもあの時の我が公民館等の状況を思い出されたようです。その後、阪神淡路や中越地震のときのノウハウを生かし、「足湯」や「サロン」ができていき、避難所に「交流」と「自治」が芽生え、避難住民の中から大勢の「草むしりボランティア」が出てきたり、「夏祭り実行委員会」が組織されたりするまでになったお話は、大変感動的で涙なくしては聴けないほどでした。今後も公民館において、「交流」と「自治」を育てることの大切さを感じさせられました。

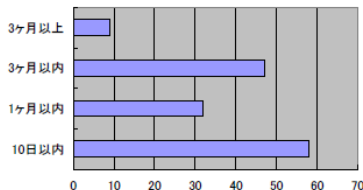
2 説 明

「地域防災に関するアンケート調査結果について」

1-(2) 震災後、施設は避難所となったか



1-(3) 避難所として開設した期間



グループ協議を前に、県北教育事務所社会教育主事より、9月に県内公民館を対象に実施したアンケート結果の資料を配付し、明らかになった震災後の県内や県北域内公民館の実態について説明しました。

3 グループ協議

テーマ「震災後の公民館の在り方」



〈第1班〉

始めに、自己紹介を兼ねて震災発生時の各公民館の状況について、一人一人から報告をいただきました。その後、各公民館等の避難所で芽生えた自治の例や残念ながら自治が芽生えなかった例が上げられ、その違いの原因



〈第2班〉

について話題になりました。また、消防団、婦人会、行政区等の組織がしっかりしている地域は避難者支援もうまくいったことから、普段からの結びつきの大切さがわかりました。